

「インカ道マチュピチュとナスカ地上絵 12 日間」を 5 月 13 日～5 月 24 日に行いました。

インカ道トレッキングは日本で知られていませんが、米国中心に世界中から物凄い数のトレkkerが集まる人気のルートです。ツアーはインカ帝国の都クスコからマチュピチュ遺跡に続くトレイルの最終部分を 3 泊 4 日のテント泊でトレック。特にこの区間はペルー文化庁が厳しく管理し、1 日の入山者はトレkker・ポーター・ガイド全て合わせ 500 人迄。ここ数年の入山受付は 1 月上旬開始でしたが、何故か今季は前年 10 月から仮予約が始まり、5 月入山分は開始早々満席に。そんな訳で今年はツアーを諦めていましたが、本受付時の今年 1 月キャンセルが出て、ラッキーにも 5 名辛うじて滑り込むことが出来ました。



(朝雲に浮かぶマチュピチュ遺跡 5/19 日)

○インカ道前半

今年のクスコは天候不順の様でしたが、私たちが訪れた 5 月中旬は大夫安定し、写真の様な素晴らしい天気が続きました。それまでの悪天候のせいか、この時期は乾燥で萎れかけている草木の緑が新鮮で、いつもと違った趣が有りました。ウルバンバへ向かう途中、少人数の機動力と素晴らしい天気を生かしてマラス塩田で天日干しの塩作りを見学。この天気は素晴らしいプレゼントもくれました。トトレック 2 日目パカイマユのテント場、10 年目にして初めて夕焼けを見ながらティータイム。標高 3000 以上のこの辺りは夕方ガスが掛かり、景色がないのが普通です。

※余談:天溪のインカ道ツアーは 2011 年を除き、ここ 10 年毎年実施されています。



(アルマス広場 5/14 日)



(マラス塩田 5/15 日)



(パカイマユ・テント場)

○インカ道後半

インカ道の前半はサボテンやリュウゼツ蘭が生える乾燥地帯を歩きます。ところが2日目 ワルミワニユスカ峠(4215m)を越えた辺りで緑の草木が多くなり、翌日セカンドパス(3950m)を越えると景色が一変してジャングルに激変。景色の変化に合わせインカの遺跡や芸術的な石畳のトレイルが現れます。歩いていると何の変哲もないインカ道の石組ですが、下を覗くと数メートル崖下から道幅を広げるために反り返るように積み上げられていて、インカ人の石組技術の高さを物語ります。

所で、下の写真は何故こんな断崖絶壁に作道したのか不思議に思われますが、これは外敵の侵入時に橋を落とし、敵の進撃を断つためだそうです。



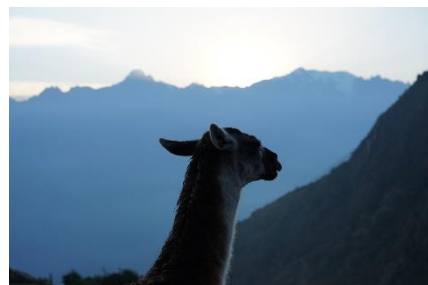
(インティプンク手前 5/19 日)



(サヤックマルカ遺跡 5/18 日)



(インカ道 5/18 日)





(インカトンネル 5/19 日)



(インティパタ遺跡 5/19 日)



(マチュピチュへ向け最後の大登り 5/19 日)

○マチュピチュ遺跡

マチュピチュ村から遺跡に向かうバスは台数が限られ、そのバスがピストン輸送するので早朝 5 時前から並んでも乗車まで 1 時間以上かかります。そんな我慢のご褒美なのか、遺跡に到着した時に眼下から雲が湧き上がる幻想的な光景に出会いました、それもブロッケン現象付きで。その余韻に浸りながら正面のトンガリ帽子の山、ワイナピチュ(2668m)登山を開始。ここは1日 400 人しか入山できません。昨年から頂上直下の一方通行が逆回り(時計回り)に変わり、高所恐怖症の皆様は若干登りやすくなったと思います。とは言え、安全のため過剰なまでに柵で固められた日本の景勝地と違い、ここは手すりなど殆ど無く、自己責任で登る事になります。ご注意ください！



(早朝のマチュピチュ遺跡 5/20 日)



(マチュピチュ遺跡 5/20 日)



(ブロックン現象 5/20 日)





(午後のマチュピチュ遺跡 5/20 日)

○ナスカの地上絵

最終日はリマから車でパン・アメリカン・ハイウエーを走り、砂漠地帯の太平洋岸を南下してピスコ空港へ。そこで双発の小型機に乗り換えナスカ地上絵を遊覧飛行しました。筆者はリマ待機で同行せず、残念ですがこの日の写真は有りません。

記 天溪 赤沼

<追紀>

6月後半から天溪のヨーロッパツアーは以下の通り催行されます。

6月26日発 花のスイス・アルプスハイキング 9日間

7月2日発 スイス・ゆったりハイキング 10日間

7月10日発 スイス・楽園ハイキング 10日間

7月19日発 イタリアン・オートルート 10日間

8月21日発 ツールドモンブラン 10日間

8月23日発 ピレネー国境横断ハイキング 10日間

※カナディアンロッキーはスコーキロッジが人気で手配が難しく、残念ながら今年はツアーを控えさせていただきます。
ご希望の皆様、申し訳御座いません。